

あまのこ

琵琶 日本一の栄光に浴す

吉永 洲神

先ず以て、岩手・宮城内陸地震の被災地の皆様に、心からお悔みとお見舞いを申し上げます。
 去る十九年九月九日、何をかくそう第四十四回全国琵琶楽コンクールに於いて、吉永鶴奏（龍奏）は図らずも見事優勝の栄に浴しました。日頃のご声援の賜物と深く感謝申し上げます。全国から予選を通過して決選に臨んだ二十五名中の一位でした。文部科学大臣奨励賞、日本放送協会会長賞、日本琵琶楽協会会長賞、辻 靖剛賞、鶴田錦史賞、石田琵琶店賞（琵琶一面）を受賞しました。十一月一日NHK・FM放送で放送されました事は一部の方々にお知らせしましたとおりです。昨年の本学院最初の三冠吟士権者の快挙に続くものであります。

就いては、本学院最高の登竜門である吟士権選の経緯を振り返って見たいと思います。

次の方々が、吟士権者として活躍中であります。

- 平成十三年度和歌俳句部門 湊山牙龍（龍陽会第一）
- 平成十四年度漢詩部門 菊田正龍（龍陽会第二）
- 平成十六年度漢詩部門 吉永龍奏（龍陽会第二）
- 平成十七年度新体詩部門 吉永龍奏（龍陽会第二）
- 平成十八年度漢詩部門 米長晃祥（若鷺）
- 平成十八年度和歌俳句部門 吉永龍奏（龍陽会第二）
- 平成十八年度三冠吟士権者 吉永龍奏（龍陽会第二）

（理事長）

本部だより

平成二十年度春季昇段審査 結果報告

右審査会が、四月二十日（日）中野区鷺宮地域センターに於いて開催され、受験者はめでたく合格されました。

一般の部						少年の部												
十段	秀伝	九段	皆伝	四段	三段	初段	二段	初段	二段	三段	四段	五段	六段	七段	八段	九段	十段	
名	十二名	二名	一名	十一名	一段	四名	四名	二名	二名	一名	七段	二名	二名	二名	二名	二名	二名	二名
範	教授	正師範	総伝	七段	奥伝	六段	五段	中伝	五段	五段	七段	二名	二名	二名	二名	二名	二名	二名
師	授	範	伝	段	伝	段	段	伝	段	段	段	二名	二名	二名	二名	二名	二名	二名
名	一名	一名	二名	二名	二名	二名	二名	五名	四名	四名	二名	二名	二名	二名	二名	二名	二名	二名
計			総本部審査委員会をへて昇段	計		師範	準師範	八段	八段	八段	八段	八段	八段	八段	八段	八段	八段	八段
十九名				三十五名		一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名

会報 第四十一号

発行日 平成二十年七月十日
 編集人 南洲吟道会広報局
 発行人 理事長 吉永 洲神
 発行所 〒一六五〇〇三五 東京都中野区白鷺二一三四一五
 (社) 日本吟道学院南洲吟道会
 ☎・FAX 〇三(三三三三〇)七〇〇九

★新入会のご紹介（会報三十九号掲載後）

次の方々が入会されました。どうぞ宜しく。

- 1、中村 弥吟（平 松） 会員No.七四三（十九、十一、二付）
- 2、名嶋 龍美（船 橋） 会員No.七四四（二〇、一、十一付）
- 3、行川 雅子（米 長） 会員No.七四五（二十、二、一付）
- 4、神田 鼎一（八王子） 会員No.七四六（二十、三、十九付）
- 5、蒲原 孝子（八王子） 会員No.七四七（右同）
- 6、木村 慶子（八王子） 会員No.七四八（右同）
- 7、下津浦 誠（八王子） 会員No.七四九（右同）
- 8、中山 直子（八王子） 会員No.七五〇（右同）
- 9、北原 順子（八王子） 会員No.七五一（右同）
- 10、吉田加代子（八王子） 会員No.七五二（右同）
- 11、田中 泉洲（若 草） 会員No.七五三（二十、四、三〇付）
- 12、藤 房徳（宮 本） 会員No.七五四（二十、五、二付）
- 13、三留 輝子（宮 本） 会員No.七五五（右同）
- 14、藤田 淳祥（瑤 洋） 会員No.七五六（右同）

合吟コンクールに出場させて戴いて

洲神会第二 肱岡 宏水

第五十五回日本吟道全国大会の合吟コンクールに出場して詩吟の奥の深さを心より感じる良い経験をさせて頂きました。良き仲間にくぐり合えたお蔭で、楽しい教場で洲神先生の厳しい指導を受けては、自分で反復練習をし、次回の教場での練習をするという事の繰り返しを続けました。今回早くも二回目となる合吟コンクール出場を与えて頂いた事は、無上の喜びでありました。

今回のリーダー佐藤廣祥さんを中心に五名が集まれる日を洲神・龍陽両先生に都合を付けて頂きまして四回の集中指導を受けました。集中指導迄には各人が十分に吟じ込んで来る事になりました。小林健祥・荻野進祥（習志野会）・佐藤廣祥（三菱）・猪浦雅水（国分寺）・私臈岡宏水（洲神会第二）以上のメンバーであり異なる会場の仲間が如何に合わせられるかが問題でした。吟の流れ、特にテープ演奏での出だし、言葉の止め、強弱の付け方等未熟者の私には非常に重いものを感じ若干の焦りを覚えました。しかし集中練習が始まると、次第に良いハーモニーになって行くのが自分自身でも理解出来る様になりました。当日出吟した「九月十三夜陣中の作」は、私にとって大切な宝物になりました。これからも精進をして吟道を追い求めて行きたいと思えます。

南洲吟道会に入会して

若草教場 幕田 紫祥

五年前、龍省吟道会の身浦先生が亡くなられた事から研修生として龍陽先生のご指導を頂くこととなりました。南洲吟道会のレベルの高さに戸惑いましたが、洲神先生・龍陽先生

のお人柄に心を打たれ思い切って入会をお願いをしましたところ、快く受け入れて下さいました。

私は漢詩に魅せられ詩吟を始めましたが東北生まれのため、ナマリ・アクセントに悪戦苦闘しています。他人の何倍も練習をしなければなりません。今若草教場へ一時間かけて練習に通っています。しかし、先生、教場の皆さんのお蔭で、苦になることなく、楽しくさせて頂いておられます。また、師範会にも入会させて頂き光栄に思っております。

南洲吟道会に入会して三度目の温習会参加となりましたが、先輩の方々が大勢いらして元気に吟ずるお姿、それを見守る先生方のお姿に感動致しました。

これからは南洲吟道会の名に恥じないよう、先輩方を見習って吟道に励んで参ります。南洲吟道会の一員とならせて頂きました事に、心より感謝申し上げます。

初心に帰って

習志野会 小坂 正祥

今年の三月で六十五歳となり、勤め先を辞めました。これからは毎日が日曜日で、会社中心の生活から地域社会中心の生活にならざるを得ないと考えた末、町内の「敬老クラブ」へ入会し、更に地元佐倉市の「四年制の市民カレッジ」に応募、運よく合格し、入学式に参加しました。入学式は市長を始めとする来賓の方々からの祝辞を賜り、千葉県警察音楽隊によるオープニングコンサートも行われる等盛大なものでした。何十年ぶりに入学式の感動を想い起こして、何としても四年間頑張り無事卒業しようと決心しました。

十五年前に南洲吟道会・習志野教場へ入会した時を思い起こし、その時も吟道精神に感銘し、頑張り・精進することを誓ったが、残念ながら最近では、マンネリ化からかやる気が薄れ、広瀬龍正先生始め教室の仲間迷惑をかけているのではと反省をしている。十五年前の初心に帰って、吟道にまい進し、吟道の大先輩達を見習い、自分も温習会等にて高齢者用花束を頂けるまで精進することを再び決心しました。

広瀬龍正先生、最後までついて参りますので今後共ご指導よろしくお願い申し上げます。勿論、「酒吟」の方もよろしくお付き合いをお願いします。

平成二十年六月二日

桜島での不思議

鷺宮教場 大塚 厚水

昨年十一月十七日から十九日の三日間、南洲吟道会の薩摩路吟行研修会に参加させていただきました。洲神先生・龍陽先生のお人柄と幹事様・世話役様の汗と涙のご努力で本当に楽しい三日間を過ごすことができました。西郷南洲翁ゆかりの地や今テレビで放映中の大河ドラマ篤姫の歩いたであろう鶴丸城の跡や仙巖園を見て廻ることができました。

その中でも特に不思議な感じがしたことを一つご報告させていただきます。

桜島の展望台から桜島に向かって、洲神先生の先導により「桜島」を大合吟させていただきました。当日は朝から晴れ男の洲神先生の名にふさわしい大晴天でその時は一つの雲も煙もない青空の下、私は心の中で桜島に向かって（みんなだ吟じます。聞いてください）と思いつつ吟じました。すると途中、錦江湾の方から桜島の左側稜線づたいに、それまで桜島周辺を飛び回っていた、鷹かとんびなのでしょうか大

型の鳥たちがするすると桜島の頂上目指してどんどん集まり飛んで来るのです。どこにこんなに居たのかとおもうほど、数百羽はいたでしょうか。詩文のなかに「噴煙 暴を捲いて竜 登るに似たり」という所に来ると鳥たちは狂気乱舞するかのように渦巻いて飛んでいました。（あゝ、すごい、みんな見て！）っと、振り返ると、一同真剣に詩文を見ながら吟じています。（今、これ見ないと……）と思っっているうちに、吟は終わりそれと同時にあっという間に、鳥たちは姿を消して飛び去っていきました。『吟じ終わって清風起る。一吟天地の心』の言葉どおりすがすがしい気持ちで一杯になりました。私にはまるで桜島の龍神様が南洲吟道会の心のこもった吟に応えてくれているかのように感じました。その素晴らしき光景は今でも目に焼き付いています。桜島の近くには龍神温泉という所があるそうです。きっと桜島の龍神様も喜んで下さったに違いありません。

後日、栗原美祥さんからその時撮った、桜島の写真をいただきました。青空に美しくどっしりとかまえた姿は何度見ても飽きません。ずいっと見ていると、桜島の上に出ている雲がなんとなく龍神様の姿のように見えてきました。今では私のお守りとしてバックに入れて持ち歩いています。

盛り沢山でいいことばかりの三日間でした。両先生と幹事様・お世話役様のご苦勞は本当に大変だったと思いますが、またこの様な機会がありましたら、是非参加させていただきたいと思っています。

南洲吟道会に入れて本当によかった。南洲吟道会バンザイ！有難うございました。

四年が過ぎて

国分寺教場 東 鶴水

四年前の六月、四十余年のサラリーマン生活を終えて半年程経った頃の事だった。さてこれから何をしようかと思っている時に、市の公民館報で「詩吟を一緒にやりませんか？」という案内に出合った。

詩吟には多少の馴染みがあった。子供の頃、父が手洗いや風呂場で詩吟を唸ったり、散歩しながら大きな声で吟じていたのを覚えている。私を散歩に連れ出したのは大きな声で唸りたかった為かも知れない。

そんな事もあって若い頃の宴席では聞き覚えの調子で時々詩を吟じたりした。但し出来るのは「疾きこと風の如く」の武田節とか父が作詩した「富嶽」という絶句だけ。いま思えば、まともな吟じ方をしていたとは思えず、首をすくめたくなる。

公民館報の会員募集に気軽な気持ちで国分寺教場に通うことになって、松本龍江先生のご指導を受ける内に、先生の力強さの中にも優しさを感じさせる吟調に魅了され、第二の人生の主要な部分を占めることになった。

そして所属した会が「南洲吟道会」というも何かの因縁を感じるのだ。鹿児島は父母の生れ故郷で、私も阿久根という町に終戦前後の四年間を過ごした。それより以前に住んでいた荻窪の部屋に南洲翁の写真が飾ってあったのを覚えている。

いま松本先生はお身体の不調でお休みされているが、再び先生のご指導を受けられることを願いつつ、三年半の間に録音させて戴いた先生の模範吟詠のテープを聴きながら精進したいと思っている。一方で新たに平松玉龍先生の熱のこもったご指導を頂き、次の目標に向かって練習に励んでいるところである。